

【学校向け・地域向け】【協力・実践形態：長期・単発】【本会ホームページへの掲載：あり・なし】

## 中学校での「見えない、聞こえないゲーム」

月脇 美智子

【推進員認定期】第2期

【所属】自治会見守りネット（個人ボランティア、元中学校教員）【活動エリア】県内西部を中心に県域

学習対象者	小学生（年生） 中学生 高高校生 住民 その他（ ）
内 容	障害理解（車いす体験、 <del>アイマスク体験、当事者と交流、施設体験、その他（ゲーム）</del> ） 高齢者理解（高齢者疑似体験、当事者と交流、施設体験、その他（ ）） その他の理解（福祉全般）
所用時間	単元時間： 6か月、 1回あたりの時数： 2学習時間
ねらい	中学校1年生の総合学習で「福祉」をテーマにして学び、自身の生活にも結び付けて考えられることができるようとする。

### はじめに

私がこの中学校を退職する前に担当した最後の学年の授業である。「福祉」の授業を地域の防災マップまで作り上げるような学習をしてきた小学校と、学年崩壊が起こり、教師を何人も病休にさせたという2校の生徒たちを受け入れてスタートした学年である。

入学後半年で「福祉」の授業を展開することに危惧の声も上がっていたが、「こういう生徒たちだから」という思いと、地域の社協職員と推進員たちの大きな後押しで実施できた授業である。

### 実践内容（6ヶ月の総合学習実践の最初の授業実践）

- 初めての授業は『福祉』という言葉は使わず「ゲーム」としてスタート
- 体育館に協力してくれる教職員と町の推進員のほとんど全員が集まり、生徒のゲームに協力した。
- 1.アイスブレイクとして担任を中心に口をきかずに誕生日順に並び4クラスを競わせる。  
2.体育館内を担任を先頭にして一列につながったアイマスクをした生徒たちが障害物をよけながら歩く  
3.最後に壁際で一人ずつの手を離して5mくらいを一人で手探りの状態で歩く。周りは協力者が安全確保のために立ちサポートをする。  
4.協力者を数人ずつ3つのグループに分ける（視覚障害の人 聴覚障害の人 視覚・聴覚ともに不自由な人）…アイマスクやヘッドポンで障害を表現する。  
5.生徒たちは班単位でそれぞれのグループの人の前に行って、障害を考えてその人の誕生日を聞いてくる。  
6.結果発表

## ここがポイント！

- ・「道徳」「福祉」などと言う言葉は使わずにゲーム感覚で楽しく皆で協力してテーマの解決方法を考えさせる。
- ・協力者には安全確保を最大限に考えて動いてもらう。
- ・この後の授業に協力してくれる推進員の人たちとの顔合わせの時間にもなることを学校・学年教師にも伝えておく。  
(高齢者蔑視・女性蔑視・障害者蔑視・大人への不信感の塊のような生徒であると小学校からは伝えられていた)
- ・生徒の様子を見ながら今後の授業の進め方の工夫も考えてもらう。

## 成果と課題

- ・今までに経験したことのない人数の地域の大人の人の協力のもとに楽しいゲーム感覚の授業をしたことが生徒には驚きであった様子。
- ・協力者たちの「可愛い子達ネエ」という小さな声の反応が、生徒には伝わっていた。
- ・学年全教師以外に校長、教務主任・空き時間の他学年教師・事務職・養護・司書等に見守られての授業で全校挙げての協力であった。生徒たちにとっては初めは見張られているという疑心からの解放までに少しの時間がかかった。
- ・視覚障害(アイマスク) + 聴覚障害(ヘッドホン)の人の前にたったが知らん顔をされて女子班長が困り果てていた。後ろの方でさめた表情で眺めていた男子生徒が、見かねて近くに来てどんどんと床を大きく踏みつけて振動で気がついたのを見て、困りはてていた生徒たちから「オウ！」と感動の声が上がった。
- ・簡単な手話ができる生徒もいたけれど、それだけでは通じないことも実感した様子であった。
- ・競争にも関わらず、誕生日を教えてもらった後でかならず頭を下げてお礼を言っていたことに協力者が感動していた(声にしてほめてくれたことが良かった)
- ・クラス対抗になっていたため担任が、夢中になっていたことも生徒と気持を共有できた様子。
- ・今後の「福祉」の授業にどれだけの効果があるかは不明。あまり期待しないでスタートした

生徒たちが入学する前に両小学校に行って生徒たちの授業の様子を見て、情報確認もしたが皆愕然とした気持ちをもち、1年生の担任希望者は一人もいなかった。(卒業生を出した学年団がそのまま新入生を受け持ったが)

全教師が覚悟を決めてスタートした学年だったが、校長を始め全教師の協力で生徒たちの成長を見守り続けることができた。私は学年主任・総合・福祉担当として実践した半年間だったが、町内の推進員の方たちの協力が非常にありがたかった。

地域の大人に見守られているという意識が育って行ったと考えられる。この学年は担任が3年間異動することがなく成長過程を見守り続けられたことが結果的には良かったと思われる。残念ながら私は定年退職で卒業時は担任団から離れて同校の初任研担当教師として傍らから見守り続けた